

“多治見市内で最も歴史のある街” 池田町を巡ろう

多治見市池田町は、正式には「池田町屋」と呼ばれ、市内でもっとも歴史のあるまちです。

古くは、江戸～明治期に中山道の脇道、下街道の宿場町として栄え、お伊勢参りや善光寺参りの旅人たちで賑わったと言われています。陶器に所縁のある多治見市内にあっては、一味違った魅力あるまちです。

アクセス：《電車》JR中央本線「多治見駅」→東鉄バス「旭ヶ丘＝小泉線」10分（池田下車）

《自動車》中央自動車道「多治見インター」→国道248号線→国道19号線：約10分



池田真徳稲荷神社

明治時代には稲荷山の麓にありましたが、JR中央線名古屋～多治見を開通させるため山頂に移されました。静かな山中にひっそり佇む寺社は紅葉のシーズンが見頃です（11月中）。また、境内に繋がる階段には、西浦焼の赤レンガが使用されています。



永泉寺

寛文年間（1661～1672年）に開山したのが始まりとされ、国指定重要文化財・木造聖観音立像が祀られています。境内にある大きなイチョウの木は必見です。

池田町屋郷土資料館

池田町の歴史が一目でわかる様々な展示を見ることができます。使われていた道具など、昔の生活を偲ばせる展示を見ながら、懐かしさ、ほろ苦さを味わえる市内唯一の民族資料館です。

